

インフルエンザに 要注意!!!

インフルエンザは、インフルエンザウイルスを病原とする気道感染症です。疾患の特徴や病原性、そして社会に対する影響の重大性から「一般のかぜ症候群」と区別して考えるべき疾患です。特に高齢者では命に関わることもあり、「老人の最後の生命のともしびを消す疾患」とも言われています。インフルエンザの特徴、予防法等について簡単にお話します。



今回はこの時期、特に気になる「インフルエンザ」について、呼吸器科の樋口先生にお話を伺いました。

どんな病気



インフルエンザウイルスは、非常に感染力の強いウイルスです。患者さんのくしゃみや咳、痰などで吐きだされる微粒子（飛沫）によって感染します（飛沫感染）。

また、飛沫核（痰や唾液が空中で乾燥して微小な塵となったもの）の中の乾燥ウイルスとして漂い、風に運ばれて数キロメートル先まで到達します（飛沫核感染）。従って直接患者さんと

接触していなくても感染する可能性があります。

潜伏期間は、1〜3日ほどです。その後、典型的には38度以上の発熱、頭痛、全身の倦怠感、筋肉痛などの症状が突然現れ、咳、鼻汁などの上気道炎症状がこれに続き、約1週間の経過で軽快します。チェックリストを参考にしてください。いわゆる風邪に比べて全身症状が強いのが特徴です。

症状がでたら早めに受診を



インフルエンザの症状がでたら、早めに医師の診断を受けるようにしましょう。発症から48時間以内であれば、インフルエンザウイルスの増殖を抑える薬が使えます。早ければ早いほど効果的です。

確定診断には、迅速診断キットによるウイルスの同定が必要です。感度は約90%です。早期では陽性にならないこともあり臨床症状、流行状態から強く疑われる場合、必ずしもウイルスが同定されなくても処方する場合があります。普段健康な人は、軽症のうちに会社

や学校を休むわけにはいかないという思いが重なって、高熱で苦しむままに病院に行かないという考えが一般的だと思います。

が、インフルエンザについては、早期の治療が効果的です。早めに治療開始することにより、治療期間、罹病期間も短くなり結果的に会社や学校を休む期間も短くなります。

抗ウイルス剤としては、内服薬では、タミフル（A型B型に有効）、シンメトリル（A型に有効）、吸入薬としてはリレンザ（A型B型に有効）があります。